

## PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 08-124160

(43)Date of publication of application : 17.05.1996

(51)Int.Cl.

G11B 7/00

(21)Application number : 06-256459

(71)Applicant : SONY CORP

(22)Date of filing : 21.10.1994

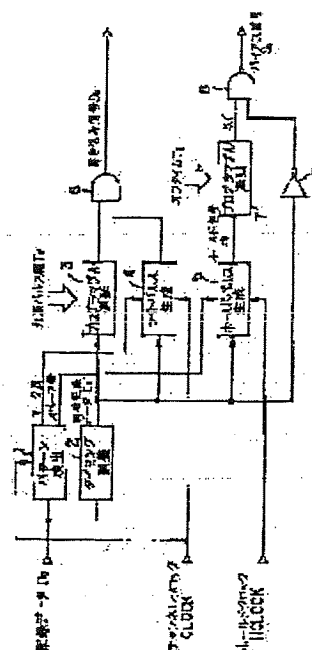
(72)Inventor : KANNO MASAKI

## (54) OPTICAL DISK RECORDING DEVICE

## (57)Abstract

PURPOSE: To suppress a jitter from being generated by reducing the edge shift of a recording mark.

CONSTITUTION: A pattern detecting circuit 1 detects a mark length and a space length from recording data D0. A programmable delay circuit 3 determines the width T<sub>1</sub> of the leading pulse of a writing signal Sw from an adjusted recording data D0' passed through a timing adjusting circuit 2. A write pulse generating circuit 4 determines the number of pulses of the writing signal Sw from the adjusted recording data D0' in accordance with the mark length. A hold pulse generating circuit 5 generates a hold pulse making the increase and the decrease of heat in a space period zero in accordance with the space length and set a hold period by using the hold pulse. The programmable delay circuit 7 adds an OFF period for reducing a heat interference in the hold period.



## LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平8-124160

(43) 公開日 平成8年(1996)5月17日

(51) IntCl<sup>6</sup>

G11B 7/00

識別記号

庁内整理番号

F I

技術表示箇所

L 9464-5D

審査請求 未請求 請求項の数6 OL (全8頁)

(21) 出願番号 特願平6-256459

(22) 出願日 平成6年(1994)10月21日

(71) 出願人 000002185

ソニー株式会社

東京都品川区北品川6丁目7番35号

(72) 発明者 菅野 正喜

東京都品川区北品川6丁目7番35号 ソニ

株式会社内

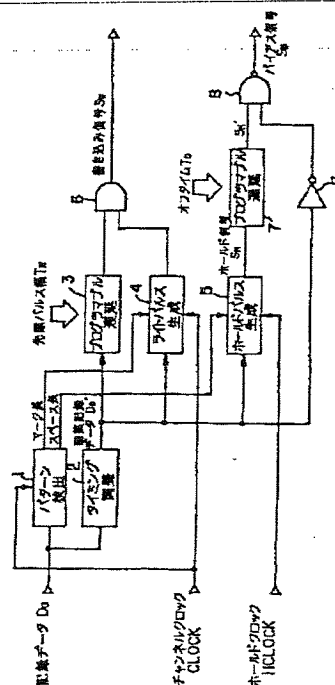
(74) 代理人 弁理士 小池 晃 (外2名)

(54) 【発明の名称】 光ディスク記録装置

(57) 【要約】

【構成】 パターン検出回路1は、記録データD<sub>0</sub>からマーク長とスペース長を検出する。プログラマブル遅延回路3は、タイミング調整回路2を介した調整記録データD<sub>0</sub>'から書き込み信号S<sub>0</sub>の先頭パルスの幅T<sub>0</sub>を決定する。ライトパルス生成回路4は、上記マーク長に応じて調整記録データD<sub>0</sub>'から書き込み信号S<sub>0</sub>のパルス数を決定する。ホールドパルス生成回路5は、上記スペース期間内で熱の増減を零とするホールドパルスを上記スペース長に応じて生成し、該ホールドパルスを用いてホールド期間を設定する。プログラマブル遅延回路7は、上記ホールド期間に熱の干渉を低減するためのオフ期間を付加する。

【効果】 記録マークのエッジシフトを低減でき、ジッタの発生を抑えられる。



## 【特許請求の範囲】

【請求項1】 先頭パルスと温度保持用パルスからなる書き込み信号と、熱の干渉を低減するためのオフ期間及びブリヒートのためのバイアス期間を有する信号により、データに基づいた発光信号を生成し、この発光信号に応じてレーザ光を出射する発光手段を駆動し、ディスク状記録媒体に情報信号を記録する光ディスク記録装置において、

上記データのマーク長とスペース長を検出するパターン検出手段と、

上記データに応じて上記書き込み信号の先頭パルス幅を決定する先頭パルス幅決定手段と、

上記パターン検出手段のマーク長に応じて上記データから書き込み信号のパルス数を決定するパルス数決定手段と、

上記スペース期間内で熱の増減を零とするホールドパルスを上記パターン検出手段のスペース長に応じて生成し、該ホールドパルスを用いてホールド期間を設定するホールド期間設定手段と、

上記ホールド期間設定手段の上記ホールド期間に上記オフ期間を付加するオフ期間付加手段とを有し、

上記先頭パルス幅決定手段の出力と上記パルス数決定手段の出力から書き込み信号を生成すると共に、上記オフ期間付加手段の出力を上記バイアス期間の前に挿入することを特徴とする光ディスク記録装置。

【請求項2】 上記ホールド期間設定手段が生成する上記ホールドパルスは、動作責務比が一定であり、発光レベルがバイアスレベルと同じであることを特徴とする請求項1記載の光ディスク記録装置。

【請求項3】 上記ホールド期間設定手段は、上記ホールド期間を上記ホールドパルスの数と周波数にて設定することを特徴とする請求項1記載の光ディスク記録装置。

【請求項4】 上記ホールド期間設定手段は、上記ホールドパルスの動作責務比を可変することでスペース期間中の温度保持の制御を行うことを特徴とする請求項1記載の光ディスク記録装置。

【請求項5】 上記パルス数決定手段は、上記書き込み信号のパルス数をチャンネルクロックに同期させて決定することを特徴とする請求項1記載の光ディスク記録装置。

【請求項6】 上記ホールド期間設定手段は、上記ホールドパルスの動作責務比と周期をチャンネルクロックに同期させることを特徴とする請求項1記載の光ディスク記録装置。

## 【発明の詳細な説明】

## 【0001】

【産業上の利用分野】 本発明は、データに基づいた発光信号を生成し、この発光信号に応じてレーザ光を出射する発光手段を駆動し、ディスク状記録媒体に情報信号を

記録する光ディスク記録装置に関する。

## 【0002】

【従来の技術】 一般に光ディスクの記録では、“1”と“0”というビット情報の連なりである入力データ系列を、該入力データ系列の最小反転間隔 $T_{min}$ と最大反転間隔 $T_{max}$ を変えて、より光ディスクに適合する符号シンボル系列に変換している。この符号シンボル系列を光ディスク上に記録するための形式としては、マーク間記録と、マーク長記録とがある。

10 【0003】この内、マーク長記録は、符号シンボル系列の符号から例えば、NRZI (Non Return to Zero Inverted) 変調で波形列を生成して、該波形列のデータ長に応じて例えばレーザダイオードLDの発光をパルス幅や出力を変化させて制御し、熱記録における記録補償を行う。例えば、クシ型パルスによる記録補償は、図4に示すように、パルス幅 $t_p$ の先頭パルス $P_1$ により径が $0.8\mu m$ のドットと呼ばれる丸い最短マーク $M_s$ を記録し、その後の温度保持用パルス $P_2$ によりマーク長を伸ばしていた。

20 【0004】ここで、ディスクの径方向のマークの距離をマーク長とし、ディスクの径方向の距離をマーク幅とする。すると、上記最短マーク $M_s$ では、マーク長とマーク幅が等しいことになる。

【0005】図4において、最短マーク $M_s$ は、チャンネルクロックCLOCKの周期 $T$ の2倍、すなわち $2T$ 分で距離 $0.8\mu m$ のマーク長となる。また、最短マーク $M_s$ が形成されてすぐに温度保持用パルス $P_2$ が2つ供給されることにより、 $4T$ 分で $1.2\mu m$ のマーク長のマークが形成される。また、最短マーク $M_s$ が形成されてすぐに温度保持用パルス $P_2$ が6つ供給されることにより、 $8T$ 分で $2.4\mu m$ のマーク長のマークが形成される。ここで、マーク幅は、いずれも場合も $0.8\mu m$ で一定である。

30 【0006】このような記録補償を行う一般的なレーザダイオードドライブ回路を図5に示す。このレーザダイオードドライブ回路80は、書き込み信号 $S_w$ をアンプ81によって互いに反転した平衡出力としてドライブ部82に供給し、バイアス信号 $S_b$ をアンプ83によって平衡出力としてドライブ部84に供給して、レーザダイオードLDを駆動している。アンプ81の平衡出力の内の正出力はドライブ部82を構成するトランジスタ $T_{r1}$ のベースに供給され、反転出力はトランジスタ $T_{r2}$ のベースに供給される。また、アンプ83の正出力はドライブ部84を構成するトランジスタ $T_{r3}$ のベースに供給され、反転出力はトランジスタ $T_{r4}$ のベースに供給される。また、ドライブ部82を構成するトランジスタ $T_{r1}$ のエミッタとトランジスタ $T_{r2}$ のエミッタは直接接続され、抵抗 $R_2$ を介して $V_{EE}$ に接続されている。トランジスタ $T_{r1}$ のコレクタはアノードが接地されたレーザダイオードLDのカソードと接続されると共に、ド

ライブ部84を構成するトランジスタ $T_r$ のコレクタに接続されている。トランジスタ $T_r$ のコレクタは、負荷抵抗 $R_L$ を介して接地されている。また、ドライブ部84を構成するトランジスタ $T_r$ のエミッタとトランジスタ $T_r$ のエミッタも直接接続され、抵抗 $R_L$ を介して $V_{cc}$ に接続されている。トランジスタ $T_r$ のコレクタは、負荷抵抗 $R_L$ を介して接地されている。

【0007】ドライブ部82のトランジスタ $T_r$ は、トランジスタ $T_r$ がオフのとき、オンとなる。同様にドライブ部84のトランジスタ $T_r$ は、トランジスタ $T_r$ がオフのときに、オンとなる。このため、レーザダイオードLDは、バイアス信号 $S_b$ によってプリヒートされ、書き込み信号 $S_w$ に応じて発光する。例えば、図6に示すような、記録データに応じた書き込み信号とバイアス信号がこのレーザダイオードドライブ回路80に供給されると、レーザダイオードLDは、図6に示すような発光パルスで発光する。

【0008】

【発明が解決しようとする課題】ところで、このようなクシ型パルスによる記録補償では、熱の干渉を低減するためのオフタイムを一定にすると、プリヒートのためのバイアスタイムが記録データパターンによりスペース間隔で変化する。このため、ディスク温度がデータパターンにより影響を受けて、記録マークにエッジシフトが発生する。

【0009】以下、記録マークに発生するエッジシフトについて説明する。

【0010】図6に示す発光パルスでは、データ間隔であるスペース期間(タイム) $T_s$ の違いによりバイアス期間(タイム) $T_b$ が変化する。ここで、熱干渉低減のためのオフ期間(タイム)を $T_o$ とすると、上記バイアスタイム $T_b$ は、

$$T_b = T_s - T_o$$

となる。すなわち、書き込み信号のパターンで変化するスペースタイム $T_s$ の違いにより、バイアスタイム $T_b$ が大きく変化することが分かる。

【0011】このバイアスタイム $T_b$ のズレがディスク温度のズレ $\Delta c$ となり、最終的に記録マークにエッジシフトを生じさせ、ジッターを発生させてしまう。

【0012】本発明は、上記実情に鑑みてなされたものであり、記録マークに生じるエッジシフトを低減することにより、ジッターの発生を抑えることのできる光ディスク記録装置の提供を目的とする。

【0013】

【課題を解決するための手段】本発明に係る光ディスク記録装置は、先頭パルスと温度保持用パルスからなる書き込み信号と、熱の干渉を低減するためのオフ期間及びプリヒートのためのバイアス期間を有する信号により、データに基づいた発光信号を生成し、この発光信号に応じてレーザ光を出射する発光手段を駆動し、ディスク状

記録媒体に情報信号を記録する光ディスク記録装置において、上記データのマーク長とスペース長を検出するパターン検出手段と、上記データに応じて上記書き込み信号の先頭パルス幅を決定する先頭パルス幅決定手段と、上記パターン検出手段のマーク長に応じて上記データから書き込み信号のパルス数を決定するパルス数決定手段と、上記スペース期間内で熱の増減を零とするホールドパルスを上記パターン検出手段のスペース長に応じて生成し、該ホールドパルスを用いてホールド期間を設定するホールド期間設定手段と、上記ホールド期間設定手段の上記ホールド期間に上記オフ期間を付加するオフ期間付加手段とを有し、上記先頭パルス幅決定手段の出力と上記パルス数決定手段の出力から書き込み信号を生成すると共に、上記オフ期間付加手段の出力を上記バイアス期間の前に挿入することにより上記課題を解決する。

【0014】この場合、上記ホールド期間設定手段が生成する上記ホールドパルスは、動作責務比が一定であり、発光レベルがバイアスレベルと同じである。

【0015】また、上記ホールド期間設定手段は、上記ホールド期間を上記ホールドパルスの数と周波数にて設定する。

【0016】また、上記ホールド期間設定手段は、上記ホールドパルスの動作責務比を可変することによってスペース期間中の温度保持の制御を行う。

【0017】また、上記パルス数決定手段は、上記書き込み信号のパルス数をチャンネルクロックに同期させて決定する。

【0018】また、上記ホールド期間設定手段は、上記ホールドパルスの動作責務比と周期をチャンネルクロックに同期させる。

【0019】

【作用】ホールド期間設定手段がスペース長に応じて熱の増減を零とするホールドパルスを生成し、該ホールドパルスを用いてホールド期間を設定する。このホールド期間にオフ期間付加手段がオフ期間を付加した後、該出力をバイアス期間の前に挿入するので、バイアス期間におけるディスクの温度変化を抑えることができる。このため、記録マークのエッジシフトを低減でき、ジッターの発生を抑えられる。

【0020】

【実施例】以下、本発明に係る光ディスク記録装置の実施例について図面を参照しながら説明する。この実施例は、例えば径が130mmの光ディスクにレーザダイオードLDからのレーザ光を照射して熱記録により波形列のデータ長に応じたマーク長記録を行う光ディスク記録装置であり、先頭パルスと温度保持用パルスからなる書き込み信号と、熱の干渉を低減するためのオフ期間及びプリヒートのためのバイアス期間を有する信号により、記録データに基づいた発光信号を生成し、この発光信号に応じてレーザダイオードLDを駆動し、上記光ディス

クにマーク長を異ならせた情報信号を記録する。

【0021】この実施例の光ディスク記録装置は、図1に示すように、記録データD<sub>0</sub>からマーク長とスペース長を検出するパターン検出回路1と、上記記録データD<sub>0</sub>のタイミングを調整するタイミング調整回路2と、このタイミング調整回路2を介したタイミング調整記録データ（以下、調整記録データという。）D<sub>0</sub>'から後述する書き込み信号S<sub>0</sub>の先頭パルスの幅T<sub>0</sub>を決定する先頭パルス幅決定手段であるプログラマブル遅延回路3と、上記パターン検出回路1のマーク長に応じて調整記録データD<sub>0</sub>'から書き込み信号S<sub>0</sub>のパルス数を決定するパルス数決定手段であるライトパルス生成回路4と、上記スペース期間内で熱の増減を零とするホールドパルスを上記パターン検出回路1のスペース長に応じて生成し、該ホールドパルスを用いてホールド期間を設定するホールド期間設定手段であるホールドパルス生成回路5と、上記ホールドパルス生成回路5のホールド期間に上記オフ期間を付加するオフ期間付加手段であるプログラマブル遅延回路7とを有し、プログラマブル遅延回路3の出力とライトパルス生成回路4の出力との論理積をアンドゲート6で求め、ゲート出力として書き込み信号S<sub>0</sub>を例えば上述した図5に示した一般的なレーザダイオードドライブ回路80に供給すると共に、プログラマブル遅延回路7の出力と上記調整記録データD<sub>0</sub>'が供給されるインバータ9のインバータ出力との否定論理積をナンドゲート8で求め、ゲート出力をバイアス信号S<sub>1</sub>として上記図5のレーザダイオードドライブ回路80に供給する。

【0022】パターン検出回路1は、図2のタイミングチャートに示すチャンネルクロックCLOCKを基に記録データのマーク長とスペース長とを検出する。

【0023】タイミング調整回路2は、パターン検出回路1での検出処理のタイミングに記録データD<sub>0</sub>の出力タイミングを調整する。図2にこのタイミング調整された調整記録データD<sub>0</sub>'を示す。この調整記録データD<sub>0</sub>'は、プログラマブル遅延回路3に供給される。

【0024】プログラマブル遅延回路3は、この調整記録データD<sub>0</sub>'から書き込み信号S<sub>0</sub>の先頭パルスP<sub>0</sub>の幅T<sub>0</sub>を決定し、アンドゲート6の一方の入力端子に供給する。このアンドゲート6の他方の入力端子には、ライトパルス生成回路4からの出力が供給されている。このライトパルス生成回路4は、上記チャンネルクロックCLOCKを基に上記マーク長と上記調整記録データD<sub>0</sub>'とから書き込み信号S<sub>0</sub>を構成する先頭パルスP<sub>0</sub>と温度保持用パルスP<sub>c</sub>の数を決定する。すなわち、このライトパルス生成回路4は、書き込み信号S<sub>0</sub>のパルス数をチャンネルクロックCLOCKに同期させて決定している。このため、アンドゲート6は、図2に示す書き込み信号S<sub>0</sub>を出力する。

【0025】ホールドパルス生成回路5は、上記スペース

ス長に応じて上記調整記録データD<sub>0</sub>'のスペース期間に周波数f<sub>hold</sub>のホールドクロックに同期してホールドパルスP<sub>h</sub>を挿入している。このホールドパルスP<sub>h</sub>は、動作責務比（Duty比）が一定であり、発光パルスにおけるレベルが後述するバイアスレベルと同じである。図2にこのホールドパルスP<sub>h</sub>がスペース期間に設けられた信号をホールド信号S<sub>h</sub>として示す。図2に示すような場合には、スペース長L<sub>0</sub>が2T<sub>0</sub>のときには、ホールドパルスP<sub>h</sub>を0個、3T<sub>0</sub>のときには1個、4T<sub>0</sub>のときには2個、5T<sub>0</sub>のときには3個、6T<sub>0</sub>のときには4個、8T<sub>0</sub>のときには5個入れてホールドタイムT<sub>h</sub>としている。

【0026】すなわち、ホールドパルス生成回路5は、上記ホールドタイムT<sub>h</sub>を上記ホールドパルスP<sub>h</sub>の個数Nと周波数f<sub>hold</sub>に応じて設定している。また、ホールドパルス生成回路5は、ホールドパルスP<sub>h</sub>の動作責務比を最適にすることでスペース期間中の温度保持の制御を行うことができる。このホールドパルスP<sub>h</sub>を有するホールド信号S<sub>h</sub>は、プログラマブル遅延回路7に供給される。プログラマブル遅延回路7は、図2に示すようにホールドパルスP<sub>h</sub>により構成されるホールド信号S<sub>h</sub>にオフタイムT<sub>o</sub>を設け、該ホールド信号S<sub>h</sub>を遅延させる。この遅延されたホールド信号S<sub>h</sub>'は、ナンドゲート8の一方の入力端子に供給される。このナンドゲート8の他方の入力端子には、インバータ9により反転された上記調整記録データD<sub>0</sub>'の反転信号（図2に示すD<sub>0</sub>'）が供給されている。したがって、このナンドゲート8は、ゲート出力として図2に示すようなバイアス信号S<sub>1</sub>を出力する。

【0027】以下に、この光ディスク記録装置の動作を可能にする原理をまとめて説明しておく。

【0028】上述したように、ホールドタイムT<sub>h</sub>は、ホールドパルスP<sub>h</sub>がduty一定のパルスでありその個数Nがスペース長により決定されることから、ホールドパルスP<sub>h</sub>の周波数f<sub>hold</sub>と個数Nにより可変できる。このことより、バイアスタイムT<sub>b</sub>と、スペースタイムT<sub>s</sub>と、ホールドタイムT<sub>h</sub>と、オフタイムT<sub>o</sub>との間には、次のような関係が成り立つ。

$$【0029】T_b = T_s - T_h - T_o$$

$$= T_s - (N \cdot 1 / f_{hold}) - T_o$$

この式からバイアスタイムT<sub>b</sub>とオフタイムT<sub>o</sub>は、個別な値として取り扱うことが可能であることが分かる。

【0030】ホールドパルスP<sub>h</sub>の役割は、ホールドタイムT<sub>h</sub>の期間での熱の増減を零とすることである。パルスdutyを最適にすることで達成できる。また、ホールドパルスP<sub>h</sub>の周波数f<sub>hold</sub>をチャンネルクロックCLOCK（周期T）に同期させることで簡略化が可能となる。すなわち、mを整数とすると、

$$f_{hold} = m \cdot 1 / T$$

の関係が成り立つ。この関係があるとき、例えばduty

は、クロック同期の状態で、

$$\text{duty} = m/n$$

と設定できる。ここで、 $n$ は整数である。

【0031】このような原理により動作して得られた上記書き込み信号 $S_1$ と上記バイアス信号 $S_2$ を図5に示したようなレーザダイオードドライブ回路80に供給することにより、この光ディスク記録装置は、図2に示すようなLD発光パルスをレーザダイオードLDに供給することができる。このため、この光ディスク記録装置は、

ホールドパルス $P_H$ を用いることにより、バイアスタイム $T_1$ の違いによる温度上昇ズレを引き起こさず、記録マークのエッジシフトを低減できる。また、ジッタの低減も実現できる。

【0032】例えば、発光パルス波形に図3の(A)に示すようなホールドタイム $T_H$ が設けられている場合、ディスクの温度上昇状態は、図3の(B)のようになり、バイアスタイム $T_1$ の違いによる温度上昇ズレの発生を抑えることができる。

【0033】ここで、オフタイム $T_0$ 及びバイアスタイム $T_1$ をチャンネルCLOCKに同期させることにより、シス

テムの簡略化が可能となる。

【0034】また、本発明に係る光ディスク記録装置は、上記実施例にのみ限定されるものでなく、例えば径の大きさが異なる他のディスクへの記録を行ってもよい。また、一層の高密度記録を実現するためには、短波長のレーザ光を出射するレーザ発生素子、例えば第2高調波発生素子等の高調波発生素子を用いてもよい。

【0035】

【発明の効果】本発明に係る光ディスク記録装置は、先頭パルスと温度保持用パルスからなる書き込み信号と、熱の干渉を低減するためのオフ期間及びプリヒートのためのバイアス期間を有する信号により、データに基づいた発光信号を生成し、この発光信号に応じてレーザ光を出射する発光手段を駆動し、ディスク状記録媒体に情報信号を記録する光ディスク記録装置において、上記デー

タのマーク長とスペース長を検出するパターン検出手段と、上記データに応じて上記書き込み信号の先頭パルス幅を決定する先頭パルス幅決定手段と、上記パターン検出手段のマーク長に応じて上記データから書き込み信号のパルス数を決定するパルス数決定手段と、上記スペース期間内で熱の増減を零とするホールドパルスを上記パターン検出手段のスペース長に応じて生成し、該ホールドパルスを用いてホールド期間を設定するホールド期間設定手段と、上記ホールド期間設定手段のホールド期間に上記オフ期間を付加するオフ期間付加手段とを有し、上記先頭パルス幅決定手段の出力と上記パルス数決定手段の出力から書き込み信号を生成すると共に、上記オフ期間付加手段の出力を上記バイアス期間の前に挿入するので、記録マークのエッジシフトを低減でき、ジッタの発生を抑えられる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の実施例となる光ディスク記録装置の要部のブロック図である。

【図2】図1に示した光ディスク記録装置の動作を説明するためのタイミングチャートである。

【図3】図1に示した光ディスク記録装置の温度上昇状態を示す図である。

【図4】従来の光ディスク記録装置の動作を説明するための図である。

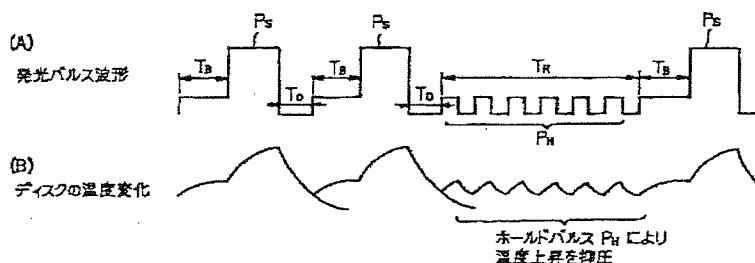
【図5】一般的なレーザダイオードドライブ回路の回路図である。

【図6】従来の光ディスク記録装置の動作を説明するための図である。

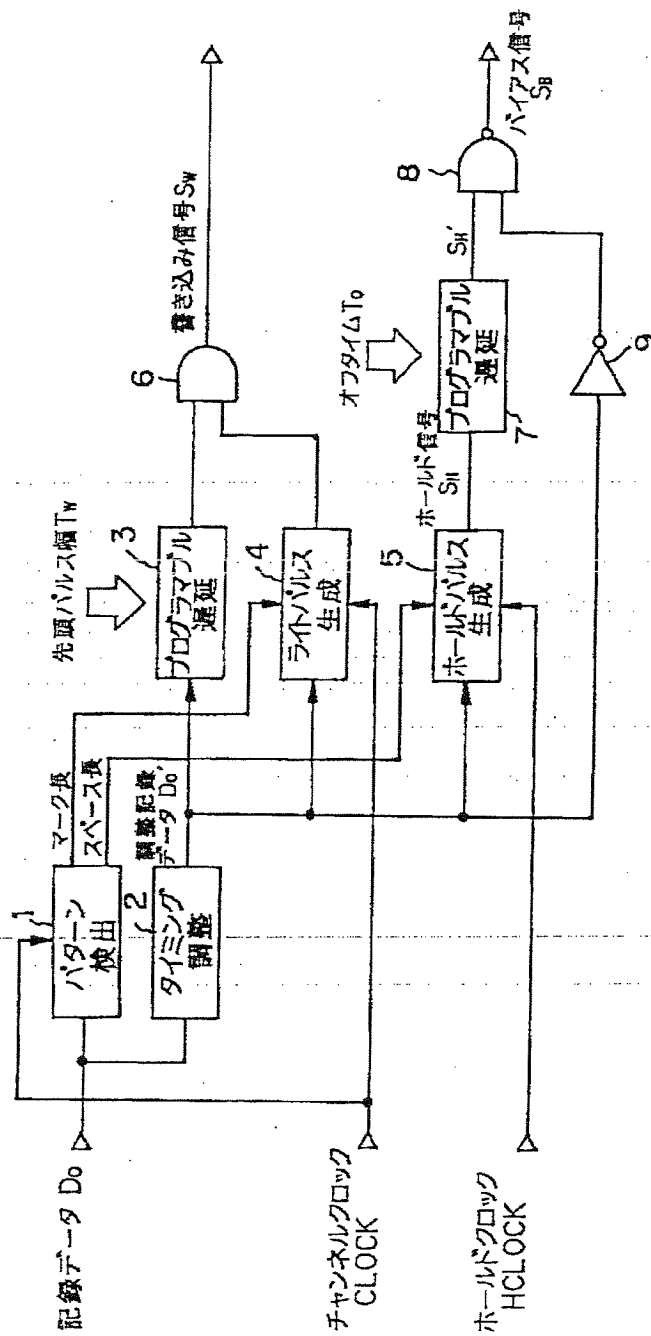
【符号の説明】

- 1 パターン検出回路
- 2 タイミング調整回路
- 3 プログラマブル遅延回路
- 4 ライトパルス生成回路
- 5 ホールドパルス生成回路
- 7 プログラマブル遅延回路

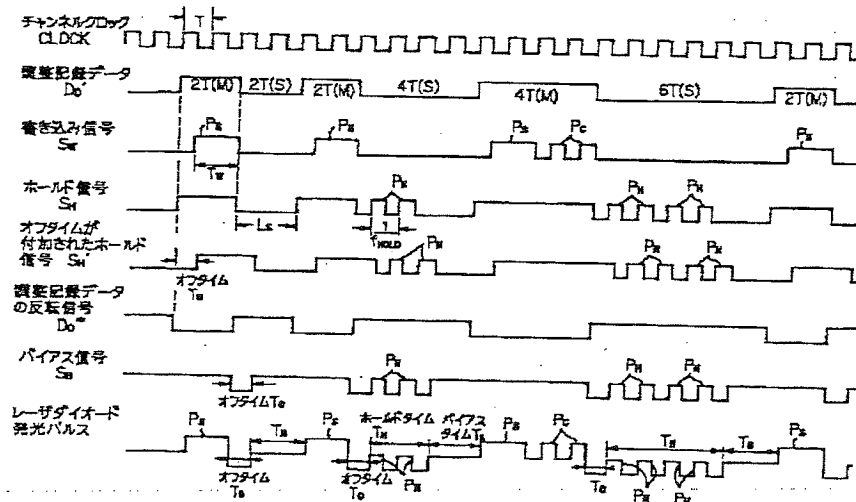
【図3】



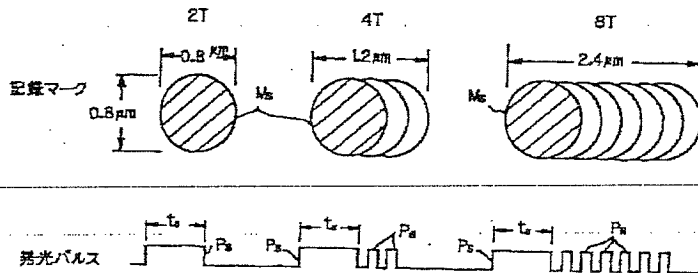
【図1】



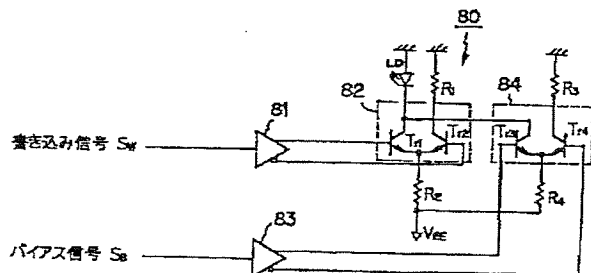
【図2】



【図4】

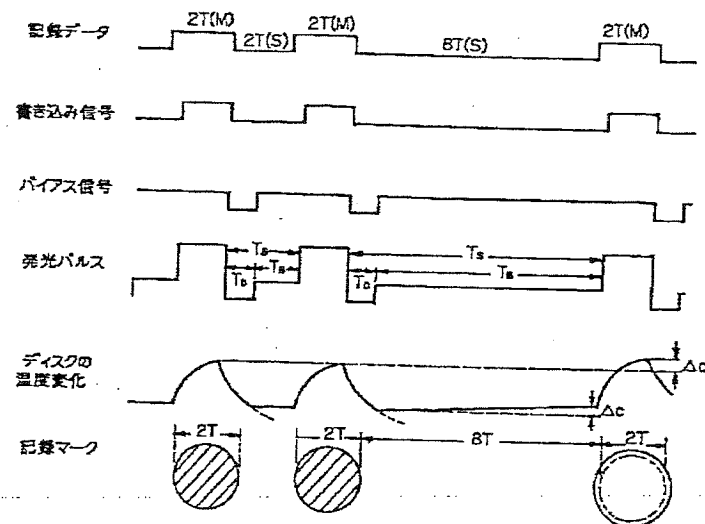


【図5】

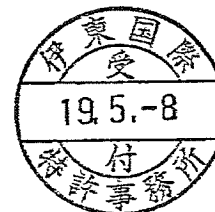




【図6】



拒絶査定



特許出願の番号	特願2006-010535
起案日	平成19年 4月25日
特許庁審査官	溝本 安展 9473 5D00
発明の名称	光記録媒体へのデータ記録方法及びその装置
特許出願人	三星電子株式会社
代理人	伊東 忠彦

この出願については、平成18年 9月 7日付け拒絶理由通知書に記載した理由によって、拒絶をすべきものである。

なお、意見書及び手続補正書の内容を検討したが、拒絶理由を覆すに足りる根拠が見いだせない。

備考

【請求項1～6】

マルチパルスを用いた光情報記録の技術分野において、消去パターンと記録パターンとの間を消去パターンのハイレベルに設定すること、消去パターンの先頭パルスをローレベルにすること及び記録パターンと消去パターンを連結する冷却パルスを設けることは、例えば特開平8-124160号公報の図2にあるように周知慣用された構成にすぎない。

この査定に不服があるときは、この査定の謄本の送達があった日から30日以内（在外者にあつては、90日以内）に、特許庁長官に対して、審判を請求することができます（特許法第121条第1項）。

（行政事件訴訟法第46条第2項に基づく教示）

この査定に対しては、この査定についての審判請求に対する審決に対してのみ取消訴訟を提起することができます（特許法第178条第6項）。

上記はファイルに記録されている事項と相違ないことを認証する。

認証日 平成19年 4月26日 経済産業事務官 平瀬 恵美子

提出期限

2006-6-20